

志望ジャンル：キャラ文芸

「探偵の助手はコーヒーが大好き」

読書が趣味の高校生・漣がバイトをする喫茶店には、コーヒー好きの風変わりな客がいる。彼、聖は容姿端麗、天才的頭脳をもち、シャーロックホームズのワトソンに憧れ探偵の助手を目指している大学生。悩みは自分が気に入る探偵がいないこと。よく店にいる彼と漣はよく言葉を交わしていた。ある日、漣の祖母の元に宝石を盗む予告状が届いた。その話を聖にしたところ、彼は解決する代わりに探偵にならないかと提案してきた。

聖に流されながら、祖母に話を聞きに行く。宝石について祖母が何か隠しているように漣は感じる。多くは聞き出せないまま、予告当日を迎える。怪盗・ジェームスは軽々と宝石を奪い、そして聖と漣に挨拶をするとその場を去って行った。

宝石がなくなり祖母は安堵していた。あの宝石は漣の祖父が元婚約者から贈られたもので、祖母はそれを知っている。政略結婚である自分が何か言うことはできないとずっと思っていた。漣も生前の祖父と祖母が愛し合っていなかったとは思えず、その理由を語る。聖はその話に、少し付けたし、他は漣を肯定。漣は見たことを話したただけだが、彼は満足そうにこれからもよろしくと言ってくる。漣は祖母のことを考え、宝石をわざと奪わせた聖を見直すのだった。

ミステリー好きで想像力があり明瞭に話せる漣を気に入り、探偵にスカウトする聖を断る日々が続いていた。彼女は平穩に本を読んでいたいのだ。そんな二人のもとに月子という幼女が現れる。彼女は自分を探偵だと名乗り、勝負を挑んでくる。聖ははじめこそ相手にしなかったものの、月子は幼い見た目に反し探偵としてとても優秀だった。そして漣は勝負にひっぱりだされ困っている人と接していく中で、自分ができることを見つけていく。引き分けに終わった勝負はジェームスの正体を暴くことで決着をつけることになるが、彼の正体を知っている聖は笑みを見せるのだった。

講評

- ・王道なら聖は探偵になるところを助手にしたのは意外性があり良いと思います。
- ・聖のキャラクターはとても立っており、物語を引っ張ってくれています。一方で漣はミステリー好きなどの要素があるものの、事件そのものに絡んでいる様子は見られず、ただ聖に気に入られるためだけのように見えます。あくまで主人公は漣ですから、彼女が活躍するエピソードにしたいです。
- ・プロットではジェームスの正体をはっきりと書きましょう。プロットは物語の最初から最後まで、あやふやな記述はせずに書くものです。
- ・キャラ文芸志望とのことですが、現代に怪盗が現れる設定がややライトノベルっぽく、読者層に合わないかもしれません。

志望ジャンル：ライトノベル

「魔剣少女とパートナー」

生まれつき魔力をもつ「剣」の少女と適合者の少年がいる。適合者は十六歳～二十歳の間パートナーの剣と魔物退治の任を負う。剣は一人では魔力を使えず、パートナーが死ぬまで魔力が続き年をとることがない。

真司は剣の沙希とパートナーになる。彼は両親を魔物に殺されており退治に積極的だが、沙希は魔力は強いものの戦いに消極的。意識の違いから二人はすれ違う。真司は幼馴染の愛奈に励まされながら退治を続けた。真司をかばい沙希が負傷。現れた青年・楨に助けられた。彼は真司に怒りを見せるが沙希が止めた。

沙希と楨は以前パートナーだった。適合者は二十歳を超えると適合を失い、剣はパートナーを殺すか次を選ぶ。沙希は仲間も魔物も殺したくなかった。彼女の本音に触れた真司は沙希を知ろうとしていく。

自分だけが真司の理解者でいたい欲求につけこまれ愛奈が魔物と契約をしてしまう。真司と沙希が力を合わせ救助。愛奈は自分を契約させたのは楨だという。沙希は予想していたようだが、理由を話そうとしない。

任務の中で真司は憎んできた魔物が、無害な者や、対話ができる者もいることに気が付く。沙希の意思を汲み無害な者は逃がしながら退治を続けていったが、戦闘中不自然なほど真司が狙われることが増えた。

楨が複数の魔物と契約した姿で現れる。沙希を理解できるのは自分だけだという彼は彼女の秘密を明かす。沙希の血の半分は魔物だった。真司は沙希のおかげでもう魔物全てを憎んではないと彼女を受け入れる。二人の気持ちが一つになり楨に立ち向かい勝利。

楨は沙希を愛していて、自分が死んで沙希にも剣としての役割を終わらせてやりたかったという。それが叶わず、今度は真司を殺そうとした。沙希は自分の強さは人も魔物も守るためだといい、守りたい人には楨も入っていると彼に伝える。真司は沙希が傷つかないように今より強くなると宣言。沙希に改めて一緒にやっ払いこうと伝えるのだった。

講評

・主人公とパートナーで性格が正反対といった設定は鉄板ですが、目的や物語において重大な部分についての考え方が食い違っているのも良いです。物語がどう展開していくかが気になるからです。

・「適合者は二十歳を超えると適合を失い、剣はパートナーを殺すか次を選ぶ。」について。パートナーを殺さず、次も探さないパターンもありえるので、その際はどうなるのか気になります。魔力が提供されなくなり、生きていけないのでしょうか？ 後の記述を見るにパートナーを殺せば剣の責務から離れられるようですが、普通の人間に戻るといえるのでしょうか？ この辺りの設定がやや不明瞭だったので、しっかり決めたいです。

・ストーリーの軸が人間関係に置かれており、魔物そのものの存在感が薄くなっています。魔物の脅威を感じにくくなってしまうので、あくまで軸は魔物と立ち向かうことにしたいです。共存を望むのであればそういった方向性の物語でも構いません。